

## 第4回 亀山市総合計画審議会 議事録

開催日時	平成28年8月23日(火) 10:00~12:00
開催場所	亀山市役所 3階大会議室
議事項目	1. 会長あいさつ 2. 第2次総合計画の諮問について 3. 第2次総合計画・前期基本計画について (1)前期基本計画(検討案)について (2)戦略プロジェクトについて
議 事	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1. 会長あいさつ</div> <p>【会長よりあいさつ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2. 第2次総合計画の諮問について</div> <p>【事務局より資料説明】</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料1の「第2次総合計画の諮問に関する流れ」について説明いただいた。今日の審議会での意見を踏まえ、次回10月31日の審議会での諮問案を事務局に整理していただくことになる。それ以降、かなりタイトなスケジュールになるがご対応をよろしくお願いしたい。では、資料1について、ご意見・ご質問をお聞きしたいと思う。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5回から8回までの審議会の日程は決定でよいか。</li> </ul> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第9回については、12月5日か7日か、定例会との関係で、まだ分からない。その他は確定である。基本的に午後で開催するということでよろしいか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その予定である。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3. 第2次総合計画・前期基本計画について</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(1)前期基本計画(検討案)について</div> <p>【事務局より資料説明】</p> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料3を1章ずつ見ていきたいと思う。その前に、資料4、前期基本計画の基本施策の構成についてご意見があればお聞きし、その後、章ごとの議論にしていきたいと思う。</li> </ul> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後期基本計画が左側に、今回の第2次総合計画・前期基本計画が中央にあり、矢印で連結されているが、色分けした中に矢印があるものとないものがある。ないものは軽く、あるものは重いという解釈もできるが、どのように理解すれば良いか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1個1個の基本施策から矢印が出ているのではなく、色が塗ってある施策が四つ並んでいれば、それ全体の矢印という意図である。</li> </ul> <p>(会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の前期基本計画の3つめの大綱「交通拠点性を生かした産業基盤の強化」に「公共交通網の充実」とある。これは、ここでも良いが、「快適さを支える生活基盤の向上」の、より暮らしや都市づくりに近いところに入れても良いという気もしている。後で</li> </ul>

内容を見ながら、皆さんの意見もお聞きしたいと思う。

<大綱1について>

(委員)

- JR亀山駅周辺の整備、再開発だが、具体的にはどのようなことが進んでいるのか。もう少し細かい内容が提示されるとイメージがわくが、漠然としていて、どういう可能性があるのか見えない。

(会長)

- 資料2でレイアウトイメージの説明があったが、最終的には右側の「施策の方向」①から④の下に詳しい記述がされるので、完成版にはJR亀山駅周辺再開発事業の推進についての説明が書かれると思うが、今の時点で想定される内容などがあれば、事務局から補足説明をお願いしたい。

(事務局)

- JR亀山駅周辺再開発事業の推進については、地域の方々と協議を進めながら、市としての方向性をまとめている段階である。亀山駅前は、いくつかのブロックに分け、特に駅正面ブロックを中心に再開発を考えている。東側についても、民間の力を借りながら再開発を進めていく。市としては、軸になる道路網の整理について検討している段階で、風通しの良い駅前になり、にぎわいに繋がっていくことを想定している。その中で、一定程度そこに公共機能を持っていく必要があるということで、検討の材料として挙がっている。

(委員)

- 1章だけの問題ではないが、どのように亀山らしい総合計画を作るかが、非常に大事なテーマだと思っている。「総花的で特徴がない」「どこのまちも同じ」など批判は簡単で、総合計画の性質上、例えば「安全、安心なまちをつくる」というテーマがあり、自然体で作るとよく似たテーマになるが、亀山らしいテーマがどこにあるのかを突き詰めて、ごつごつしたものを作ったほうが良い。誰もが「大事なテーマだ」というものをまとめるより「亀山としてはここが一番大事」というものを。どこにウエイトを置くかで、他のまちとの違いが出てくる。例えば「安全・安心のまち」というと、どこでも津波対策が主になるが、亀山は当然違う。テーマは地域性から出てくるものもある。1の(1)で「都市づくりの推進」とあるが、亀山が都市としてどのように発展していくのかを踏まえて考えなければいけない。亀山は交通の結節として発展してきた歴史があるので、「交通拠点性を生かした産業基盤の強化」というタイトルは非常に良い。「都市づくりの推進」で、亀山が都市たる所以は、やはり一つは交通の結節で、それをどこまで生かしているか。現在、道路網もかなりできており、交通の便の良いまちを作っていくことが一つの方向だろう。さらに、「リニアが来ることを見越して今からやっておくこと」がテーマになる。それを色濃く出されるべきだと思う。もう一つは、「快適さを支える生活基盤の向上」とあるが、生活環境として考えた場合、緑に囲まれていることは非常に良いところである。そこをどう生かしていくか。「都市づくりの推進」の一つのテーマを交通の結節として、どうまちを作っていくか。暮らしやすく、働く場を考えると、他所へ働きに行けて、他所からも働きに来てもらえる、それにふさわしいまちを作っていく。同時に生活環境をどう守るか。例えば、公園・緑地の整備より今ある緑を生かしていく、あるいは都市公園を造るときにも借景のような形で生かしていく。そういうところで亀山らしさが出てくるだろう。ごつごつしても、どういうまちをつくっていくのかということをもっと明確に出したほうが良い。「めざす姿」でも「都市機能の充実が図られた中で、快適に暮らしています」という

だけでは、亀山のまちがどうなっていくのか、よく見えない。そういうことを検討したほうが良い。

(会長)

- 同感である。「めざす姿」をもう少し充実して書けると良い。「めざす姿」は、基本的に「市民が」「行政が」「来訪者が」と人が主語になっていて、それも一つの書き方だが、例えば「都市づくりの推進」で、どういう都市を目指すのか、都市の説明がないと伝わらない。今の意見を踏まえ、もう少しめりはりをつけたり、亀山の特徴をこの中に記述していくことを考えると、「めざす姿」のところに書き込むことも方向性としてあるかと個人的には思う。

(委員)

- 皆が協力してまちづくりをと考えていることは大変立派だと思うが、「ボランティア団体が増加する」「ボランティアによって公園等の適正な管理を求めていく」「ボランティアの充実」など、あちこちにボランティアと書いてあるが、ボランティアと言っても、高齢化の中ではやや難しいのではないかと。フェスティバルというとなんでもボランティアだが、高齢化している現在を見ると一度考えなければいけないし、若者のボランティア活動も、まだ亀山では定着していないのではないかとと思う。

(会長)

- 2ページの下から2番めの丸のところ、担い手がこれから不足する可能性があることをきちんと課題として書くということである。

(委員)

- 「めざす姿」、確かにここがキーポイントだと私も感じている。例えば7ページ。「市民が、良好な水環境の中、おいしい水を利用しています」の「水環境」の意味が分からない。「おいしい」は形容詞で「めざす姿」ではなく、現状おいしい水であるとした場合に、この文面はいかがかと思う。上下水道のポイントは安定した経営で、そういう意味においても少し見直しをしたほうが良いのではないかとと思う。次に9ページ、同じく「めざす姿」だが、「安全で快適に生活を送っています」ではなく、「安全で快適に行き交っています」。これは道路のことなので、大きくは生活であろうと思うが、直訳的には「行き交っています」という表記のほうが良いかと思う。この「めざす姿」のところはまだ意見があるので、後で書いたものを提出させていただく。

(会長)

- 7ページの水に関しては、供給もだが、集中豪雨が増えているので、排水をきちんとしなければいけない。上水道と下水、雨水マネジメントもしっかりと「めざす姿」のところで書くべきである。そうすると、1行で「めざす姿」を書くことは無理と使い始めている。

(委員)

- 「めざす姿」だが、終わりがすべて現在形である。「めざす姿」は未来の姿なので、未来形で終わったほうが良いと思った。

(会長)

- これは今、人が主語になっているので、将来の状態を示すために現在形になっている。ご意見としては、これからどういう方向で都市づくりをしていくかという書き方のほうが良いという感じか。未来形で書くとは、具体的にどのようなものか。

(委員)

- 「しています」となっている文が多いので、「できるようになります」など、そういう書き方である。

(会長)

- その下に掲げられているいろいろな施策を実行していくと、そういう暮らしができるようになるという言い方か。

(委員)

- そうである。

(委員)

- 逆行する発言かもしれないが、資料を全般的に見た中で、6項目の大綱がかぶるところが非常にたくさんある。水についても、もともとの山をどのように管理しているか、あるいは環境に配慮した下水設備など、それぞれの項目で出てきているので、どのポイントで発言したら良いかが非常に難しい。どのようにしたら良いか、アドバイスをいただければ発言しやすくなるので、お願いしたい。

(会長)

- 確かに、いろいろなところにまたがっている。この基本施策は、最終的には行政の各部局が担当して仕事をしていくので、どうしても縦割りになっている。少しでも関連があることならば、どこでご発言いただいても良いと思う。全部議論をしたあとに全体を振り返るので、そのときに横断的にまたがることについてコメントいただいても結構である。

<大綱2について>

(委員)

- 亀山市は、全国健康づくり連絡協議会のメンバーに三重県下で唯一入っている。そういうことが表現されていないので、アピールすべきではないか。せっかく良いことをしているのに、内外にアピールされていない。

(会長)

- 先ほどの議論と同じで、いかに亀山の特色や「らしさ」を出していくかをきちんと積極的に書いたほうが良いということである。

(委員)

- 22、23ページだが、「地域福祉力の向上」の現状がこの状態なのか疑問を感じる。現状把握についてももう一度きちんと考えていただきたい。特に、「社会福祉協議会と連携して、地域福祉の推進を図っています」とあるが、地域福祉の推進に当たって、行政側がしっかりとしている中で「連携」という言葉が出てこないとおかしい。「安心して福祉サービスを利用できる環境づくり」にも「社会福祉協議会との連携強化」と書いてあるが、連携強化の前に地域福祉についてきちんとした取り組みをしているということがあってしかるべきである。表現として、何をしているのか書かれていないのではないか。ぜひ一度考えていただきたい。

(委員)

- 26ページ2番めの丸の文章は、「現状と課題」というよりも「こうしましょう」の文言になっている。これでは「現状と課題」というくくりには当たらない。

(会長)

- どちらかという、「めざす姿」に近いので少し整理が必要だと思う。

(委員)

- 第4章に子育てを取り出したことは、非常に意欲的で良いが、24ページの健康づくりのところと子育ての関係は、かなり密接に影響する部分がある。「ネウボラ」という、

健康づくりの面から周産期前後を含めて支援しようという動きがあり、保健師が中心にしていると聞いていたが、これは4か2か。そういう、健康づくりの面から安心して産み育てられるようにしていこうということが、あまり書かれていないのではないか。

(会長)

- 24、25ページを見ても、お年寄りから子どもまで共通することが書いてあるが、「子どもは」「高齢者は」とは書いていないので、分かりにくい部分があるかもしれない。

(事務局)

- 基本的には4章で整理しており、55ページの「健やかに産み育てられる支援体制づくり」で、出産前の妊婦健診なども含めてケアしていくことを、その中の施策として位置づけていきたいと考えている。

(委員)

- 「めざす姿」は、気持ち的なことは分かるが、具体的なものが出てこない。第1次計画から引き継いで発展させること、第2次で新しく設けることが、整理がされていないのでよく分からない。第1次のときに参加されている方は、「これはやっていた」と議論されているが、第2次から来ている者は理解に苦しむところもある。その辺りが整理されている、第1次ではこうなっていたが、第2次ではこうしていくということが、内容的に分かるような説明があればと思う。

(委員)

- 「現状と課題」の現状のところだが、第1次計画でこのように改善された、あるいは、このような課題が残ったということがあれば、今回の基本構想なり施策でさらにどうするかがイメージできる。今までの取り組みを踏まえて、第2次計画がどう発展するか、新たな展望が持てるかということが出てきて、本当に魅力のある総合計画になるのではないかと思う。

(会長)

- 「主な施策の方向」を書くときに、今までうまく行っていたものは引き続きやると思うし、うまく行かないものは手を変えて対応しなければいけないことがあると思う。それを検討する中で、もう一度「現状と課題」を見直し、今までとどう違うのかも書き込んでいくと分かりやすくなると思う。第1次総合計画のレビューは、すでに行政の中でもしているし、総合計画を作るときの資料としては残る。冊子にはならないかもしれないが、きちんとやっていただいているので、それが分かるような記述内容にしていくと良いかという気がする。

(事務局)

- 具体的に分かりづらいという部分だが、事業をここで書いているわけではない。基本構想、基本計画があって、それに基づいて第1次実施計画として施策を推進するためにどのような事業をやっていくかは、そこでないと見えてこないものもあるし、例えばJRのように事業規模が大きく、基本的な構図も決まっていることについては、市の姿勢として、ここにそこまでの表記ということで、施策間には具体性の面などで多少の温度差があり、実際そういう表現になっていることはご理解いただければと思う。

(会長)

- もう少し戦略的な計画にしたほうが良い気がする。既に決まっていることや、これからリニア新幹線の構想があるので、そういう機会を捉えて、亀山市としてはどのように施策を展開していくのか、平板な書き方ではなく、外部から与えられている機会をきちんと有効活用するような、積極的な書き方をしても良いという気もした。

(委員)

- 26ページの「高齢者の地域生活支援の充実」で介護・福祉サービスのことが挙げられているが、高齢者が亀山で安心して暮らすには、交通手段があるということだと思う。「公共交通網の充実」のところに「移動困難者の交通手段の確保」と書いてあり、それぞれの場でそれぞれの担当者がやっていくことなのでこのように離れて書いてあるのかと思うが、やはりこの、高齢者が住み慣れたところで自分で生活していけるということで、交通について触れてあるほうが良いと思った。

(会長)

- そういうことが他のことについても十分にあり得るので、何回も出して良いのではないか。項目だけ出して「再掲」などと書けば良いので、この部分では、高齢者の地域生活支援を充実させるためにいろいろな施策があり、その一つとして公共交通のことが書いてあるが、公共交通網の作り方については別のところに詳しく書いてある、というふうに、関連する施策は出してしまっ、関連付けるというやり方もある。これは文章を作るときのテクニックだと思う。

(委員)

- エコー周辺に店が集中しているが、亀山でそれを消費する割合が減ってきている。高齢で一人で住んでいる車に乗らない方に、「中心部へは歩いていくのか」と聞くと「乗せていってもらおう」と言う。乗せてくれる人が手配できないときは、買いに行かない。また、若い家族と住んでいる高齢者は、土日に鈴鹿へ行くと言う。地域内の公共交通を充実させることが亀山市の産業振興に繋がるという視点を、もう少し持っても良いのではないか。地域内消費が増えると感じている。

(事務局)

- 全体に関わる話で、施策の関連性について、交通の視点か、弱者の視点か、これは交通の話だが、関連するところは非常に多く、健康づくりや子育てに関わるところもあり、一番色濃いところに書くだけにとどめるか、再掲としてその視点に応じた表現を含めて、違う方向、健康の方向から見る交通、移動・交流の視点から見る交通とそれぞれに書くことが良いかは、検討も含め対応させていただきたいと思う。

<大綱3について>

(委員)

- 37ページ、3章に6項目あるが、農林業は少し異質である。全体の整理の中であちこちへ行っているのが致し方ないと思いつながら、農林業が「交通拠点性を生かした産業基盤の強化」のどこにマッチングするのか疑問に思う。次に、45ページ「めざす姿」だが、「観光地としての魅力が広く知れ渡り、来訪者が増加、観光産業が活性化しています」としたほうが分かりやすいのではないかと思う。47ページの「めざす姿」も、「リニア新幹線の誘致が実現に向かって進んでいます」と、直線的に表したほうが良いのではないか。その後の施策がこれによってリニアに特化した形で繋がってくる気がするので、市民の大きな関心事を前へ持ってきたほうが良いと思う。

(委員)

- 「企業活動の促進」の「現状と課題」だが、ものづくり企業の海外流出の危機感を入れたほうが良いのではないか。それと、自然災害に強い内陸型の工業都市としての強みを生かした企業立地の促進や、既存企業の誘致のための施策なども入れたほうが良いのではないか。「亀山市雇用対策協議会等関係機関と連携」とあるが、商工会議所も入れていただきたいと思う。

(会長)

- こういうところは、なるべく具体的に書いたほうが良い。三重県の都市は、大体沿岸部にあって地震・津波に弱い、その中で亀山市の立地は極めて優位にあるので、それを生かした産業の誘致や、今ある企業が残ってくれるようなことをきちんと書いていったほうが良い。海外流出も実際にあるので、その危機感についてもきちんと書くほうが良い。

(委員)

- 44、45ページの「観光の推進」だが、道の駅やサンシャインパークに来訪者が非常に増えているので、関宿も伸びているのではないかと思ひながら話をさせていただく。関宿を走ると、夜でもポケモンGOでスマートフォン片手に歩いていて、そういう意味でも増えているかと思うが、経済効果については、お金をあまり落としていてくれないという問題があるように感じる。その中で、亀山版DMO設立ということで非常に期待しているが、関のまちなみで、宿泊施設、飲食業をするには、規制等々があり、なかなか思うようにできないと聞くので、特区的な考えで、いろいろと経済効果があるようなことをしていただきたいと思っている。亀山観光協会是一般社団法人だが、DMOを設立したときに、どのように関わっていくのかも聞きしたいと思う。

(会長)

- 質問が出たが、そもそもDMOとはどういうものか教えていただきたい。それから、どういう態勢でやっていくのか、あればお願いしたい。

(事務局)

- DMOは国交省が最近進めているもので、観光地のいろいろな関係者を巻き込んで、いろいろな経営側面を担い、リードしていく法人と位置づけられている。観光協会については、どのような形になるかはこれから進めていく中で決まってくると思うが、現在の市としては、どうしたいと明確にあるわけではないが、観光協会抜きにやっていけるものではないと思う。基本的には、中心的に関わっていただくことになるだろうとは思っている。観光協会自体の強化も考えていかなければならないと思っているので、それと併せて設立支援という中で進めていこうと思っている。

(委員)

- 具体的なことは決まっていないということだが、DMOは、そもそも設立はするのか。

(事務局)

- したいと考えているが、市がするものではないので、市も当然関わってはいくが、法人を立てる話になり、例えば観光協会がそれになっていくという形も一つの結果としてはあるだろうし、観光協会は参画する一団体として、新しいものができてくることもあると思う。そういうものを作っていくことで、市がまちづくり観光の推進に寄与でき、リードしていく法人ができてくるのではないかとということで、その設立支援をしていきたいという考え方である。

(委員)

- 「まちづくり観光の推進」というのは、亀山市と観光協会との関係を強く感じる。サミットがあった関係で、三重県に観光でたくさん来ていただき、その中に亀山もあるが、三重県で亀山がどこにあるかまだ知られていないのが現状で、亀山市の観光振興課や商工振興課が県の観光課とうまく連携できていない感覚がある。県でもPRしているが、それをうまく使えていない。県と連携して観光協会、市民と協力すれば、もっと観光が盛んになる。また、観光地に住んでいる市民の協力が限り観光客を受

け入れる態勢はできないので、来訪者を気持ちよく迎えられる態勢づくりからしていかないと、観光はうまくいかないと思う。そういう表現がされていない。

(委員)

- 観光に来るには公共機関を使うので、公共機関のほうには観光を結びつけて記載してあるが、こちらには記載されていないということと、一番近いのは関駅だが、タクシーが停まっていない。車で来ると駐車場がない。関宿の中を車が通っている中で観光客がいる。観光に安全にたくさんの人に来てもらうには、関宿自体の整備をここに記載しておかないと進んでいかないのではないかなと思う。道路や公共機関の整備などを付け足していただければと思う。

(会長)

- 45ページの最後の二重丸のところに入るかなと思う。交通マネジメントは大事である。

(委員)

- 「まちづくり観光の推進」に関して、亀山版DMOというのは面白いと思い、期待もして、どのような人が担い手になるかという点で、発想を豊かにして創造的なものにしてほしい、していきたいという思いがある。亀山市が観光を重点的な産業振興のポイントとして打ち出しても、一輪挿しの観光地ではないので、観光のために亀山でリニアを降りる人はいないだろう。四方が緑に囲まれているまち、一級河川が流れていて水の豊かなまち、歴史・文化のまち、そういった小さいものを寄せ集めれば、魅力的で面白い観光になるだろうと思う。そういう打ち出し方をしないと、プロモーションをする、パンフレットを作ると同じようなことをやっても、亀山らしい観光アピールにはならない。リニアが来たときというよりも、JRが亀山市内に五つ駅を持っていることをもっと大事にするべきだと思う。東海道は、少人数だが毎日歩いている人がいるが、途中で飲食店や亀山の文化に触れられるところがない。例えば関駅周辺に駐車場を作るのではなくて、亀山駅前に車を止めて、亀山駅から関まではJRを使ってもらう。そういう発想で五つの駅を観光として位置づけると、もっと公共交通機関を生かした亀山市観光のイメージが豊かに広がるのではないかなと思う。

(委員)

- 観光についての意見がたくさん出ており、全部同感で、自然を大事にした何かで活性化に繋がることができないかなと思いつつ、観光というには、観光協会と行政との関連がどのようになっているかももう少し突き詰めて、観光について考えていただきたいと思う。芸濃の花街道は自然を利用していた。わざわざ観光施設をお金を出して作るのではなく、自然を大事にしてほしい。観光に来たが、食事が無い、泊まる場所がないということも聞く。関ロッジももうないし、これでは寂しい。早めに手をつけていただきたい。観光協会も行政ももう一歩進んで、わざわざお金を使わなくても自然を利用したりして、観光をもう少し掘り下げていただけたらと思う。

(会長)

- 皆さん関心がある分野ということで、ぜひこれをさらにブラッシュアップしていただきたいと思う。

(委員)

- 41ページに「小規模事業者」とあるが、これは小規模事業者に限らず、中小企業も入れていただきたいと思う。

(委員)

- 42、43ページの農業のところだが、現状に「生産性の向上や生産規模拡大のために」とあるが、それがあまり進んでいない辺りに、亀山の農業、農地の状況があると



思う。例えば、鈴鹿の平野部のような田は、亀山は少ない。小規模で点在し、水の流れも一定していない。ここを大規模化することは、経営戦略的にはかなり難しいだろうと思う。中山間地の棚田も草ぼうぼうである。しかし、それを生かした小規模の農のあり方を、亀山はやるべきではないか。例えば、TPPを前提にして、攻めやもうかる農業というイメージは、亀山の農業の将来にあまりないような気がする。交通が便利で緑豊かな亀山は、例えば都市部の人々が週末滞在型や一定期間、夏休みなどは一週間レベルで、いわゆるグリーンツーリズムのように空き家を宿泊施設にして、地元農家と一緒に農作業をする、耕作放棄地を農地として貸し出すシステムをもっと市を挙げてすると、第二のふるさとの的に都市部の人たちに来てもらえるようなまちに、産業の振興、観光とも結びついてできるのではないか。そういう意味では、農業の状況と今後の発展の方向をもっと考えても良いのではないかと思う。

(会長)

- 外からグリーンツーリズム、観光農業で来ることも、一つ独自のアプローチとして良いと思う。そうすると、「交通拠点性を生かした」ということとも合ってくるので、そういう要素を少しここに入れることも、検討していただけたらと思う。

<大綱4について>

(委員)

- 54、55ページ、「安心して産み育てられる環境づくり」ということだが、亀山市は小児科がいまだにない。子どもを育てようとする、近くに小児科が必要だと思う。現状は鈴鹿市へ行かれたりしている。子どもを育てるという観点から行くと、医療制度は拡充しないといけないと思うので、ぜひ記載をお願いしたいと思う。

(会長)

- 小児科はないのか。

(委員)

- ある。それより産科が少ない。

(委員)

- 52ページに「子どもたちの豊かな学びと成長」の「現状と課題」が5項目あるが、今は分からないが、1、2年前は複式学級があり、1年生と2年生が一つのクラスであるとか、1クラス10人という現状で、これは大きな課題だと思っている。友達がいない、競争できない、このようなことは、やはり現状の中へつかまえて、どのように転換してくかということに繋げていただきたいので、「現状と課題」にぜひ加えていただきたいと思う。今も複式学級はあるのか。何クラスぐらいあるのか。

(委員)

- 正確には分からないが、加太、白川に複数、2クラスずつくらいある。私も教育者なのでよく分かっているが、亀山の状況からいえば、100人未満の学校が大半になってきている。それを守っているのは地域なので、課題として書くのか、そういうものの教育を充実させるために動くのかは、議論が分かれるところだと思う。ただ、複式をそのままにして良いという議論ではない。子どもの数が減ってきている現状は、日本全国どこでも起こり得る議論で、亀山だけの議論としてはなかなか捉えにくいのではないか。まして、地域から見れば、学校をなくしてしまうという議論が地域の将来像をなくすこともあり得る。その辺りは、それぞれの担当が議論をしていただきながらのほうが良いと思う。言っている意図はよく分かる。

(会長)

- この総合計画ですべての施策の方向性をきっちりと決めなくても良いと思う。議論が必要なものはこの前期基本計画の期間中に検討して決めていけば良い。今のようなことは、地域できちんと議論して方向性を定めなければいけないという趣旨のことを現状の認識のところに書くことと、施策の中にそういうことについて検討する場を設けることを書いてはどうか。

(委員)

- 移住の推進という意味では、魅力を打ち出していくことが後にあるが、学校のあり方も多様である。親も子どももどのような学校を求めるかが、多様になってきている。小規模校はいろいろな意味で課題があるが、小規模・少人数ゆえに教育活動が充実することも事実である。亀山市の教育のあり方として、多様な学校を保障していることが、子育てをいろいろな形でしたい世代が亀山の子育て環境が魅力だと思える要素にもなると思うので、小規模校の魅力を打ち出し、充実させていくような支援で、これからの時代は、効率化と集中による統合という動きとは違う方向に行くだろう。私も伊賀で教員だったので、小学校が廃校になったら地域ががらりと変わることを見てきた。そこは慎重に行かないといけないと思う。

(委員)

- 53ページで「地域とともにある学校づくり」ということで、学校区によっては、まちづくり協議会と連携し、地域づくりに参加していただいている学校もある。やんわりとした表現で良いので、そういうものを入れていただきたい。加太や白川などの学校においては、それぞれ特色ある学校づくりがされていると思うので、それを生かした学校づくりをお願いしたいと思っている。

(会長)

- 首都圏だと自治体によっては学区制を廃止している。亀山は、まちの中の学校と田舎のほうの学校では規模も違い、教育内容も多様化させるとしたらいろいろなものが出てきて、例えば山のほうに住んでいるが、学校はまちに行きたい人は行けるとか、そういうフレキシビリティもあって良いと思う。通学、交通の問題が発生するが、そういうことも含めて多様性を考えていただいたらと思った。

(委員)

- 子育てのところで3点。一つは、「安心して産み育てる子育て環境」で、亀山市が優れているのは、いろいろな発達障がいを持った子どもたちへのケアがとても良く、三重県下でもかなり充実させてきたことである。その延長で、障がいを持って生まれてきた子どもたちの支援を継続的に行い、障がい者が暮らしやすいまちを作るという点で、療育センター的なもの、生まれたときからのシステムを作っていく必要があるのではないか。二つめは、中学校の給食だが、学校給食の検討委員会では中学校給食の方向が提案されていた気がするが、私は伊賀にいて、伊賀市が合併するときに給食をどうするかという議論をかなりやった。センター方式で伊賀市全体が給食になったが、旧上野市の先生方は反対が多かった。ところが、導入して2、3年で「やって良かった」となっている。亀山の場合は、デリバリーが3割ぐらいと聞いているが、子どもの貧困対策の面から考えても、思春期の子どもたちの現状、地域の雇用の創出や地産地消という点からいっても、中学校給食は可能性を秘めていると思う。もう少し踏み出していても良いのではないか。3点目は、学校図書館を活用した授業づくりである。これは各学校に図書が充実することは当然であるし、いわゆる先端機能を持つ亀山市立図書館に一定の図書がないとできない。また、専門司書を支援するシステムを作ら

ないとできない。本格的にやるならば、その辺りを充実させる方向で図書館の充実、司書の配置等も含めて考えていただきたいと思う。

(会長)

- 55ページの最後に「出会い・結婚への支援」とあって、これは行政がやるのかと個人的には思う。結婚への意識啓発は、いろいろな考え方を許容するインクルーシブな社会にしないといけないので、少し押しつけ過ぎかという気がしている。

(委員)

- 文章も「婚外子が一般的ではないわが国において」とあるが、これは必要か。

(会長)

- この辺りは、非常に注意しなければいけない。ここはかなりニュートラルに書かないといけない。ポリティカル・コレクトネスとよく言うが。

(委員)

- そのことに関して、むしろ過疎化が激しい県で、人が戻ってきたり、新たに移住してくる要素の一つが、例えばシングルマザーでも子育てが安心してできるということが、結構多い。三重県内でも、過疎といわれる地域に若い人が戻ってくるのは、離婚して戻ってくる。男性の場合も女性の場合もあり、亀山市も多いただろうと思う。そのときに、この書き方はどうかと思ったし、多様な方が暮らし、安心して子育てでき、例えば伊賀市のように、LGBTの人たちも同性婚はできなくても、夫婦としてのいろいろな施策を受けることができるようにするほうが、もっと魅力的なまちになると思う。

(委員)

- 54ページ、上から5個めの黒丸で「児童クラブの設置を支援するなど、待機児童の発生を未然に防いで」とあるが、「待機児童」はイメージでは保育所に入りたくても入れないという使われ方をするが、この表現で良いのか。

(会長)

- これは調べて適切な用語にしていきたいと思う。

<大綱5について>

(委員)

- 58ページの黒丸の三つめ、「就業人口の地域活動への無関心」と「無関心」という言葉が使われているが、確かに無関心の方も増えてきているとは思いますが、企業に勤めている方が、ボランティアも含めてそういうところに参画しようという気がないかというところ、そうではないと思う。企業経営の厳しい中で働いていて、そこまで気が回らないと思うので、「無関心」という言葉は適切ではないのではないかと思います。どういう言葉が良いかは分からないが、変更していただければと思う。

(会長)

- 参加したくても参加できない状況があるということなので、書き方を変えるほうがよい。

(委員)

- まち協の活動の推進について、58、59ページで書いてある。まち協はできたばかりだが、地域自治のためにも非常に大事なポイントだと思う。その割に、書いてあることが大ざっぱなので、もう少しきちんと将来像を考えたいうえで書き上げる必要があるのではないかと。まちづくりの基本条例に関わってからできてきて、今はもう各地区のまち協ができていますので、やはり各まち協にどのようなことが期待されているのか、

どのような発展をしていくことが本当に地域自治に貢献していくのか、ということが、もう少し明確に出されたほうが良いのではないか。これで4、5年間過ぎていくことは、非常にもったいない。目標を明確にし、それを皆で目指していくようなものに、行政も一緒に動いていただけるとありがたい。

<大綱6について>

(委員)

- 66ページ、「職員の能力を生かせる組織力の強化」とあるが、「組織力の強化」は、組織を膨大にするとも捉えられる。ここはテクニック、技術だと思うので、現代用語に直すならば「マネジメント力の強化」ぐらいにしたほうが、より下に繋がってくるのではないかと思う。

(委員)

- 市の職員が能力を発揮できるようにシステムを考えていくことは、大事なことだと思う。亀山市もそうだと思うが、自治体の職員は、専門職も含めて非正規の方が増えている。例えば保育の現場にしても、学校でもそうである。亀山市は、できる限り職員の労働条件を良くしていく。非正規でしかやむをえない、あるいは非正規のほうがふさわしい仕事もあるのだろうが、その辺りも思い切って打ち出して良いのではないか。それが亀山市の魅力になると思う。職員の労働条件を充実させるなど、行政改革に書かないかもしれないが、やはり大事なことだろうと思う。それから、亀山市ぐらいの規模では、公共の仕事は、雇用創出のうえでも大事である。そういう点で、学校給食も一緒に考えれば良いのではないかと思う。

(会長)

- 職員がより気持ちよく、安定した仕事ができるようにすることは、大事だと思う。

(委員)

- 今年度から職員に人事評価制度を入れるということで、民間企業であれば、例えば開発期間や生産数量に対してどうだったかなどの指標があるが、どのような項目に対して評価をするのか。内容によっては、本当にモチベーションが上がるのかということに関わってくると思うので、教えていただきたい。

(事務局)

- 職員の人事評価は平成28年度の導入だが、以前から、業務を実績評価、職員の能力評価、部下から上司への多面評価の三つの評価で、人事評価制度を進めている。実績評価は、年度当初に自分が、また部、室としてどのような仕事をやっていくのか目標を立て、中間と期末において達成できたか評価すること、能力評価は、自分がどういう能力を身につけていくか、例えばITの力が不足していれば、それを強化することが実際1年間でできたのかということ、最終、部下が上司について、どのようなマネジメントができたかを見ていく、この三つが人事評価制度としてできており、平成28年度からは、地方公務員法が改正され、国からこの人事評価制度を給与に反映するシステムを導入するよう義務づけられたため、そういったことをクリアしていくために、新たに制度を見直していくことになっている。給与に反映するということは、本当に平等に評価できるのかということもあり、本当に難しいことだと思う。

(会長)

- あまりがちがちにすると働きにくい。素晴らしくやっている方をきちんと褒める、前向きなシステムであると良い。検討されていると思うのでよろしくお願いしたい。
- 68ページの一番下の丸に、市庁舎について細かく書いてあり、ここに書いてある言

葉もその通りだと思うが、前回、後期基本計画のときにも市庁舎のことが非常に議論になったので、あえて私から言うが、建物そのものよりは、特に災害時のヘッドクォーターがきちんと機能するかどうか、市長が安全かどうか、そういうことが大事だと思う。69ページにそれがあまり書かれていない。市長の考えもあり、明確には書けないのか。左には心配ごとがたくさん書いてあるので、これに対応させないといけないと思う。例えば、駅前の再開発をすると当然新しい建物ができるので、重要な拠点は一部そちらに移すとか。いろいろな考え方があると思うが、いかがか。

(事務局)

- 68ページの三つめに「現状と課題」を利用面も含めて幅広く書いたうえで、69ページに施策、骨組みを位置づけている中で、二重丸の二つめに「中長期的な視点による市庁舎のあり方の検討」と置いている。現状の市の考え方としては、この5年間の前期基本計画においては、中長期的な視点で市庁舎がどうあるべきかを考えていく期間という考え方である。それまでの管理、必要なことは、「公共施設の利便性を高める利用環境の改善」の施策で対応していきたいと考えている。

(委員)

- 「職員の能力を生かせる組織力の強化」ということだが、外部との交流や国の機関への出向、または国から来ていただき、いわばよそ者を入れることによる刺激、能力アップも必要になってきている。現在、亀山市の方も一部、そういうことで国へ行かれたと聞いているが、その方を生かしているのかと感じるところがあるので、生かして行政・市政づくりをしていただきたい。せっかく優秀な職員がたくさんいるので、お願いしたいと思う。

<全体について>

(委員)

- 全般にわたることだが、総合計画とはこういうものであるということであれば致し方ないと思うが、「これやります」「このように行きます」と非常に前向きだが、その裏の財源がどうなっているかというところが全く触れられていない。財源を踏まえた物事の判断をしていただきたいと思う。聞くたびに、財調基金が目減りしていて何年先には枯渇すると、必ず脅しがあるので、それを踏まえたものにしていかなければ、総合計画がぼた餅になってしまう恐れがある。ぜひ、その財源、担保をこの中で考えていっていただきたい。

(事務局)

- 総合計画をつくる際には、実施計画でいろいろな事業を想定し、概ね10年間の計画を立てていく中で、その10年間でやっていく事業にどれだけの財源が必要で、財政調整基金をどれだけ活用していくかの中長期的な財政見通しは、当然立てていかなくてはならないし、第1次総合計画を策定した段階でも、中期財政見通しも立てて行っており、この2次の総合計画についても、中長期的な財政見通しを立てた中で、進めていきたいと考えている。

(会長)

- 私は都市計画が専門なので、都市づくりの推進などの関連だが、例えばコンパクトなまちを作るとか、以前に計画してあまり必要なくなった都市計画道路の整備をやめることなどは、財源が厳しくなる中で選択していくことでもある。上下水道システムも今までずっと作り続けているが、人口が減って維持管理の負担が大変になったら、大きな上下水道システムではなく、分散型の小さなシステムで回すとか、浄化槽を見直

すなども入ってくると思う。「めざす姿」や「施策の方向」にエッセンスが入ってくると、財政的に厳しくなってくる中で方向性が出せるのではないか。多分「施策の方向」を書くときに、それは意識されているのだが、きちんと市民に伝わるような記述にしていただけるとより良いかと思う。

(委員)

- ハード面での整備がたくさんあり、こんなふうに考えてもらって市が動いているのだと、改めて思ったのだが、やはり重点項目を考えて、どこからやっていったら良いかということと、ボランティアなど人材育成や、人権意識を高めていく、意識を変えていくなど、ソフト面もたくさん出てきたので、組織マネジメントというか、職員のやる気を高めるという辺りで、どのようにソフト面にも関わっていったらいいか、市民を動かせるかと思うので、その辺りの整備も考えていってほしいと思う。

## (2)戦略プロジェクトについて

【事務局より資料説明】

(委員)

- 新しくこれを作ることは非常に良いと思うが、現状、いろいろ施策で補助金を出している部分で、これとダブるもの、時代遅れで廃止、またはこれに移行しても良いようなものもあるかと思う。関宿の問題やいろいろな市民活動などが、ややもすると、趣味の世界で補助金をもらっているような部分もあるので、そういうところは「少額だから、まあいい」ではなく、カットするところはカットし、これに移行するところはするような整理も必要ではないかと思っている。その辺りも踏まえて検討していただければと思っている。

(委員)

- 資料2を見ると、今後、成果指標づくりに進んでいくことになると思う。これができると、この成果指標というものである程度評価されることになると思う。そうすると「めざす姿」と成果指標がうまく整合していないと、総合計画を、今後の進捗をうまく評価できなくなってしまう。実際、うまく作られていない総合計画が他所の自治体でたくさんあるので、ぜひ、整合できるようにしていただきたい。今回、この「めざす姿」については相当議論があったので、何を指すのかという議論を一方ではしていただき、一方ではそれがどのような指標に表れてくるのかという議論をしていただいて、指標が設定されたら、その指標が一体どのような姿を表しているのか、これを行き来する形で作っていただくと非常に整合性の取れたものができ、できたあとが随分違って来るはずだと思っている。ぜひ、お願いしたいと思う。

(会長)

- とても大事なご指摘だと思う。今日の審議はこれで終了したいと思うが、今日まだ言い足りないこともあるかと思う。今月末ぐらいをめぐりに、追加のご意見を事務局にお寄せいただければと思う。